

資料

山口県小瀬川工業用水道事業の紹介

○ 事業の主旨

小瀬川工業用水道の給水区域は、山口県東端に位置し、南は岩国市、北は広島県大竹市に隣接した和木町にあり、鉄道、道路、港湾の各施設に恵まれ工業立地に適していることから近隣地区を含め石油コンビナートの一角を形成している。当事業はこの地域の産業活動を支える重要な都市基盤としての工業用水を安定供給するものである。

○ 事業の経緯

小瀬川工業用水の水源は、この地域を流れる一級河川小瀬川の河川水を利用し、110,400 m³/日をこの工業地帯に工業用水として供給を行っていたところである。しかし、周辺の岩国地域が工業地帯として発展するに伴い、工業用水の需要が増大し、小瀬川の流水だけでは対応することが出来ない状況となってきた。このため、ダム建設による新規の水開発を行い水需要に対応していくこととなった。しかし、本工業用水の水源となっている小瀬川が山口・広島両県の県境を流れ、使用水量の配分について両県による協議が進められたが、協議がまとまらず旧建設省にダム建設と併せて調整を依頼することとなった。その後、昭和33年9月にダム建設地と併せて工業用水の配分について旧建設省から調整案が提示され、両県とも了承したことから治水を含めた総合開発事業として本工業用水道貯水施設でもある小瀬川ダム建設に着手することとなった。

これにより、昭和37年4月にダム建設に着手し昭和40年3月に完成し、新たに38,400 m³/日の取水が可能となり、現在148,800 m³/日の給水能力を有することとなった。

また、取水・導水施設及び送・配水施設の建設工事は昭和43年4月から着手し、昭和44年12月に完成し現在運用を行っている。

その後、各施設の経年劣化が進行し、ポンプの起動渋滞や管路の漏水等突発的な事故が頻繁に発生し、送水管理に支障をきたすこととなったため、昭和62年度～平成5年度にかけて一連の工業用水道施設の改築、更新を実施し、安定した工業用水の供給を行ってきた。

さらに送水設備の主要部分である送水井については、一槽しかなく、断水時間に制約があることから調査補修ができない状況にあった。

このため、事故緊急時や調査補修時などに断水することなく安定供給できるよう送水井の二槽化を図ることとし、新たに平成16年度から送水井の建設を進めている。今後も施設の保全管理の充実を図り、岩国・和木地域の産業活動を支える重要な都市基盤としての工業用水の安定給水に努めていく。

○ ユーザーの概要

(平成19年4月1日現在)

業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
化学	1	112,100
石油	1	36,000
その他	1	700
合計	3	148,800

○ 工業用水道施設の概要

貯水施設として重力式コンクリートダム(堤高49.0m、堤頂高158.0m、堤体積96,400m³)を有している。

取水導水施設は、取水施設が約0.8km、導水施設が約0.02kmとなっている。

送配水施設は、管路が約2.1km、隧道1.4kmとなっている。

○ 事業の特徴

- ・当事業は浄水施設を有しておらず全て原水供給となっており、その分安価な料金であることが特徴である。

○ 工業用水道概要図

次ページ

○ 山口県企業局ホームページアドレス

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a40100/index/>

